



学薬のひろば



V o l . 0 1 5

先日、小牧市民病院で催された講演会に出席しました。「これからの創傷治療」というテーマで夏井 睦先生（特定医療法人慈泉会 相澤病院 外傷治療センター長）の講演でしたがご存じの先生方も多いと思います。以前から気にかかっていたのですが改めて実際に講演を聴かせていただくと今までの医療現場での常識がこれから大きく変わっていく思いを味わいました。今回は、薬剤師だけでなく養護教諭にも声をかけましたがNHKなどでも取り上げられたこともあってか実際に保健室でも父兄からの問い合わせがかなりあるとのことで薬剤師より多く出席していただきました。こうしたところは薬剤師としては反省すべきではないかと思われます。

実際、最近出たハイドロコロイド素材のパッド（右写真）を利用してみるとその違いがよく分かると思われます。（ただ、少々高価ですが・・・）消毒薬の使用を含めて学校の保健室等で指導助言できるようにこれから勉強すべき分野と思われます。また、ラップ療法等を勉強されてみえる先生もあるかと思われますが「病院ではよいけれど在宅では・・・？」というお話をよく聞きます。どこがいけないのかを明らかにしフィードバックを行うことからまた新たな進展もあるのではないでしようか！？



10月、11月は各種の全国大会が続きます。学薬としては10月29日の全国学校薬剤師大会、11月18・19日の学校環境衛生・薬事衛生研究協議会等ですが発表、出席される先生方には大いに勉強していただき講習会等の場で披露していただければ幸いです。なお、今年度2月6日（豊橋）、13日（名古屋）の愛知県学校薬剤師講習会は豊橋会場では健康学習課の大鳥先生、名古屋会場については「学校環境衛生の基準」の執筆者のお一人でもある村松 學先生（日本学校薬剤師会常務理事）をお迎えして講義をお願いしておりますので期待してください。

<愛知県学校薬剤師講習会講義予定>

1. 講義Ⅰ
“未 定” 養護教諭
2. 講義Ⅱ
” 環境衛生の基準の改正点について” 大鳥（豊橋）、村松（名古屋）
3. 講義Ⅲ
” 薬の正しい使い方 “ 樋口

ダニ及びダニアレルゲン検査について

近年、アレルギー症状を呈する児童生徒が増加しているとして、アレルギーを引き起こす要因の1つとして平成16年度より定期検査に組み入れられたもので、具体的には保健室の寝具、カーペット敷きの教室等、ダニの発生しやすい場所について検査することとされ、ダニの数が100匹/m²以下又はこれと同等のアレルゲン量以下とされた。

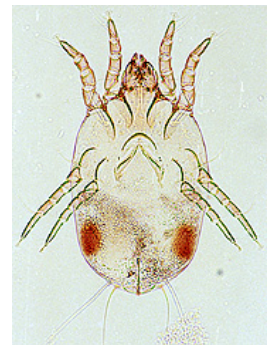
今夏に調査を実施しましたので、結果について報告します。



＜基準掲載への経過と代表的なダニ及びダニアレルゲン＞

日本で全国的に分布していて室内塵から検出されるダニ類としてはコナヒョウダニとヤケヒョウダニがもっとも普通に多い。その出現頻度はコナヒョウダニで82%、ヤケヒョウダニで73%程度といわれている。

長期にわたる試験から喘息患者さんの発作とダニ数の相関が確認されダニ数が1㎡当たり100匹以下になると、発作はほとんどでなくなることが分かってきたことからこうした判定基準が定められた。



コナヒョウダニ（雄）

コナヒョウダニ（雌）

ヤケヒョウダニ（雄）

ヤケヒョウダニ（雌）

＜ダニアレルゲンの種類＞

現在ダニアレルゲンは「Der p1」「Der f1」「Der p2」「Der f2」の4種類で

「Der p」はヤケヒョウダニのことで p1 が糞由来、p2 が虫体由来のアレルゲン

「Der f」はコナヒョウダニのことで f1 が糞由来、f2 が虫体由来のアレルゲン

です。Der 1 は Der p1+Der f1 のアレルゲン量で、Der2 は Der p2+Der f2 のアレルゲン量をいいます。

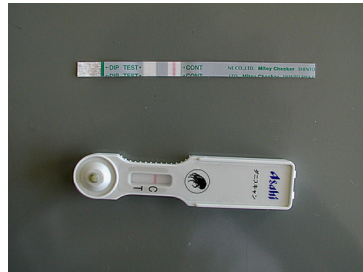
一般に Der 1 と Der2 では Der 1 の方が

1. 糞は虫体より小さく気管に入りやすい
2. 糞は虫体よりも多いこと
3. 糞の方が活性が高い

といった理由で重要視されています。

<簡便な測定法>

1. マイティチェッカー ・ ・ ・ コナヒョウヒダニの Der2 を測定
2. ダニスキャン ・ ・ ・ コナヒョウヒダニの Der2 を測定



<マイティチェッカーとダニスキャン>

<マイティチェッカーの測定方法>



ゴミ取り袋をセットする



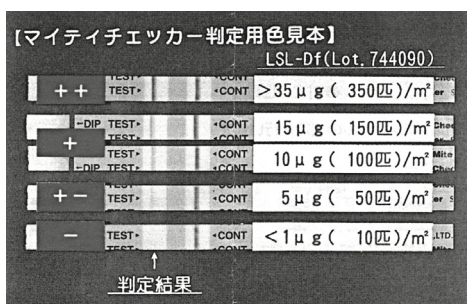
1 m² 1 分間吸引



抽出用溶液をいれてよく揉む



抽出液に 3 秒間浸ける



レベルを判定する

マイティチェッカーの判定基準

判定	判定の目安	ダニアレルゲンレベル
++	ラインが太く濃い	>35 μ g (>350匹)/m ²
+	ラインが明確	10 μ g (100匹)/m ²
+-	うっすらと発色	5 μ g (50匹)/m ²
-	発色しない	<1 μ g (<10匹)/m ²

＜調査方法＞

マイティチェッカーを用いて保健室のベッドマットについて調査を実施した。

＜調査結果＞

[illegible]

< 考 察 >

右写真はある小学校の保健室ですが今回全校の保健室でベッドのマットで簡易検査キットを用いてダニについて調査を行いました。その結果が前表で28校中17校で(+)以上の結果となりました。保健室自体は整理整頓されていますがベッドマットは重いこともあってか日光に干すことまではなかなかできないうえ、結構古いものを使用していたりしてダニ（ダニアレルゲン）の生息に適しているようです。定期的に日光消毒するとともにこまめに掃除機をかけること、そして古いマットは期限を定めて交換するようにすべきでしょう。

また、今回一部の学校でカーペット、ソファなどでも調査を行った結果、かなりのところで(+)以上となりました。

場所や物を変えて定期的に検査をすることでダニやダニアレルゲンについての学校関係者の認識を改める必要性を感じました。



布カバーのソファからも検出された



古いベッドマット
(破れがみられ交換が望ましい)

< その他 >

他の簡易法としてダニスキャンがあるが今回の調査で併行して調査を行っていますので12月の5日の東海薬剤師学会大会ポスターセッションで報告させていただきます。